

考えても仕方がないことと SDGs

ある講演会で、「考えても仕方がないことは取り敢えず置いて、今できることをやる」という講師のお言葉を聞いたことがあります。現在の私は、医学・医療関連については十二分に活動できていますが、現在のコロナ禍では、どうしても、コンサートで歌うという音楽活動はなかなか出来ず、「コンサートで歌うこと」は「考えても仕方がないこと」ということでした（2021年7月8日の徳島でのリサイタルは、第4波と第5波の間のコロナが落ち着いている時期に開催でき、ラッキーでした）。この原稿を書いている10月23日の頃には、コロナ患者の激減を受け、ほとんどの規制が解除されましたので、今後、コロナ感染の再拡大がなければ、かなり自由に「コンサートで歌うこと」も出来るようになりますが、「規制解除」により、ニュースでの報道を見ていて、居酒屋でマスクもせずに「かんぱ〜い」と言って談笑しながら飲酒飲食をしている映像を見ますと、遠からず「第6波」になってしまうのではないかと心配しています。

コンサートで歌えなくても、せめて、私のCDやDVDのプロモーションであれば、「今できること」になると考えてはいました。周りの方々から、よく、この時代、「SNS」を使って、コンサートやCDの宣伝をすれば良いのに・・・と言われて来ましたが、スマートフォンでは、会話とメールしか使わず、「SNS」を使うことが全くできない私には、なす“スベ”がありませんでした。そんな所に、私の友人で、ご自身もテノールの勉強をなさっていらっしゃる上村伸二様が、各方面のプロモーションの専門家と組んで、私をプロモートして下さることになり、このホームページもお立ち上げくださいました。上村様は、「翻訳家」と「マーケティングコーディネーター」という2つの顔をお持ちの方で、医療機器ほか、各種産業分野の翻訳業務と、各企業の様々な企画プロモーションの仕事をなさっていらっしゃいます。なお、上村様がおっしゃるには、現在のスマートフォンの「SNS」等の機能は、便利だけが先行するあまり、セキュリティも甘く、また運用に関する法整備も不十分で様々な問題を抱えており、まさに、コミュニケーションの最先端の仕事をしている上村様でさえ、スマートフォンでは、会話とメールの機能しか使わないとのこと。「SNS」を使うことが全くできない私は、まさに、“正解”であったこととなります。上村様がおっしゃいますには、私の音楽活動をプロモートするという発想ではなく、“「米澤傑」その人をプロモートする発想”とのことで、心より深く感謝申し上げます。

最近、17色の丸い輪のバッジを胸に着けた方を良く見かけますが、17の大きな目標と具体的な169のターゲットを持つ『SDGs (Sustainable Development Goals)』（日本語訳：「持続可能な開発目標」）を表現するバッジです。最近、テレビ報道でも、毎日、何回も「SDGs」を聞いたり、見掛けたりします。その第一文字の「Sustainable」を「持続可能」と“造語翻訳”なさったのが、上村伸二様です。上村様は、「Sustainability」を「持続可能性」と訳するに際し、「continuable（継続できる）」、「competitive（競争力の高い）」、「survival（生き残れる）」等々の言葉とも比較検討し、想像を絶する苦労の上、「sustainable = 持続可能」と翻訳なさったとのこと。上村様にも申し上げましたが、私は、「sustainable」には「持続可能」以外には適格な言葉はないと確信しています。「continuable（継続できる）」は単に“続いてゆく”というだけで、sustainable に含まれる「支える」という意味が薄いですし、「competitive（競争力の高い）」では「持続性」という意味が薄いです。また、「survival（生き残れる）」では、sustainable に含まれる「余裕」の意味合いに欠けます。「残存可能」では“最低限の段階で残れる”という感触で、「持続可能」のような“崇高さ”がありません。まさに「sustainable = 持続可能」という言葉は、英語も日本語も、それに代わるものはない言葉であると考えます。

上村様は、「Good amateurism」を「崇高なアマチュア精神」と翻訳して、その言葉を座右の銘としているとのこと。「Good」に関しては、「noble、supreme、superior、lofty」などではなく、「God」に由来する「Good」を選び、それを、「良い」ではなく、「崇高に」と翻訳したとのこと、上村様のセンスに感服いたしました。「Good amateurism」が、「Poco a poco」の過程で「Professional」と評価されるようになるとの、上村様の思考過程も、普段、その場、その場の目の前のことに忙殺され、深く物事を考えて来ませんでした私には、まさに、衝撃でした。私の座右の銘はと申しますと、“「長～い苦しみ、一瞬の喜び」そして「ダメでもともと」”の文章で書いてありますように、「ダメでもともと」でして、まさに、底辺を這いずるようなレベルで、そのような私が、プロモートに値するかどうか、私自身には全く分かりません。このホームページに関しましても、上村様が、「今できること」をなさってください、私は何もしないで良いのですから、“ダメもと精神”で、他人事のように見守ってゆきたいと思っています。

(2021年10月24日記)